

社会や時代のニーズに合わせて シミュレーターソフトを進化

Hondaは長年培ってきた安全運転のノウハウを活かし、シミュレーターをはじめ、様々な安全運転教育の現場で活用しているため、教育機器やソフトを提供しています。それらは、社会のニーズに合わせて常に進化させています。



ライディングシミュレーターポリスタイプ(開発中)

ライディングシミュレーター ポリスタイプの開発

Hondaでは路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器として、1996年にHondaライディングシミュレーター(次頁参照)を開発。進化を重ね、2017年には3世代目を発売しました。このノウハウを元に、白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の訓練で活用できるポリスタイプを開発中です。

車体はライディングシミュレーターを活用し、白バイ隊員訓練用の専用ソフトを新たに開発。違反車両の追跡中に想定される危険なシチュエーションの再現や、追跡中の広報マイク音声の録音機能、プロジェクターへの映像投影機能を追加し、白バイ隊員の集合教育で活用できるようにしています。また、免許教習用に開発された基本ソフトも、警察学校や各警察署での警らバイク訓練時の危険予測能力を向上させるツールとして活用が可能です。

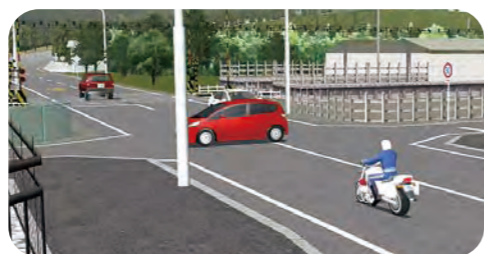
試験運用では訓練の現場から「組み立てが容易で様々な場所で運用できる」「実際の装備を再現するだけでなく、使用もできるため本格的な訓練が実施できる」といった評価をいただきました。



追尾中の音声録音機能も備える



赤色灯など白バイ装備を再現した画面



違反者追尾中の危険状況を再現

視野検査器の開発

視野障害をきたす眼疾患の代表である緑内障とは、何らかの原因で視神経が圧迫され視野が狭くなる病気で、症状が進行しても視野の中心は見えているため、自覚できないことが特徴です。Hondaは2010年から、視野狭窄が進んでも運転を継続している後期緑内障患者の専門医による実態調査に協力する一方、警察庁の「高齢運転者交通事故防止対策に関する提言」の具体化に向けた分科会の一つである「視野と安全運転の関係に関する調査研究」に委員として参画。Hondaセーフティナビを使って視野異常と交通事故の関係について分析するためのデータを収集してきました。

また、現行の高齢者講習で運用されている水平方向のみを測定する視野検査器に加えて垂直方向も含めた広範囲での視野の欠損状況を測定する視野検査器を開発しました。この視野検査器は今秋、期間限定で埼玉県運転免許センターでの高齢者講習に使用され、その機能の効果検証にも協力しました。今後は視野狭窄など、自分の目の状態を知るためのスクリーニング機器として、活用できる方法を検討していきます。



視野検査器



検査の様子

検査器の測定画面



測定結果をその場で出力可能

安全運転教育機器

Hondaライディングシミュレーター

路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器です。教習所での免許取得時教育のほか、様々な場面で活用できる危険予測学習に特化したソフトが充実しています。(写真は3世代目)



Honda自転車シミュレーター

実際の交通状況を再現し、街中での自転車の運転を模擬的に体験できます。交通ルールやマナーの解説等により、道路交通法に沿った乗り方の学習や、自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験し、危険予測能力を高め、安全意識の向上を図ります。



Hondaセーフティナビ

「だれでも、楽しみながら、様々な交通状況が体験学習できる」をコンセプトとし、パソコンを使用して、市販のステアリングなどと組み合わせることで、簡易型シミュレーターとして手軽に使用できます。

◎一般向け

安全運転に繋がるアクセル、ブレーキ操作からエコドライブの度合いを診断したり、検定員の指示による走行体験や走行環境の変化における注意点を学ぶことができます。



◎リハビリテーション向け

運転能力評価サポートソフト
リハビリ加療中の方の自動車運転復帰に向けて、運転能力に対する評価・訓練をサポートするソフト。シミュレーターにより、運転操作における手足の複合的動作を確認できます。



Honda動画KYT

CG動画映像を用いて、時間的経過(事故に至る流れ)に対する瞬時の認知・判断を伴う研修を多人数ですることで、危険予測能力を高める集合学習教育機器です。

